

「つながる」ことをめぐる 日本留学中と留学後の語り

ピッツィコーニ・バルバラ pizziconi barbara

ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院 SOAS, University of London

岩崎典子 Iwasaki Noriko

南山大学 Nanzan University

異文化能力の発達における「つながる」

- 異文化能力の発達に焦点を当てるために、「つながる」≈ connecting ≈ mise en lien 原理という角度を使う
- Liddicoat and Scarino 2013: 57 によると、connecting の原理は言語や文化の経験や習得を可能にする。「言語や文化は孤立して習得したり経験したりするものではなく」、様々な要素の相互関係から生み出されるものである。つまり、学習者が自らの文化内の位置、他者の文化内の位置、さらには言語や文化の境界を越えた文化間の関係、といった要素の絡み合いの中で言語や文化を把握し意味づけると述べている。

異文化能力の発展における「つながる」

- 「つながる」には認知的な意味と社会的な意味がある
- 学習理論では、「つながる」 ≈ connecting ≈ mise en lien の過程を「意味を理解する」という認知的プロセスと理解し、
- 自分の既存の立場と新しい立場、既知の意味と新しく発見された意味を理解し、自己の経験や世界を間断なく再解釈し概念的再構築のプロセスだとみる。
- しかし、内的プロセスではあるものの、社会的文脈との関わりの中で起こり、そこから生じる創発的理解である。

異文化能力 INTERCULTURALITÉ

- 「文化的な違いを超えて他者とうまく交流する能力」であり、行動の中でしか育まれない (Byram 2000)
- 参加することで得られる
- 個別に発達するものではなく、相互主観的な達成である (Dervin 2010)
- 共同構築された共同事業である
- 相互作用における話し相手または共同参加者の役割をもっと強調する必要がある
- 個人的な知識に基づくアプローチから、自己と他者、そして、その関わり合い、交流を考慮したアプローチに移行する必要がある (Dervin & Layne 2013)

ホスト社会とのインタラクションのチャレンジ

外的

- 母語話者相手の行動（例：言語形式の修正、内容への関心の欠如、「フォリナートーク」）（Wilkinson 2002; Iino 1996）軽蔑的または対立的態度（Siegal 1996, Pavlenko 2002）
- 人種ポリティックス（熊谷・佐藤 2009）
- 「外国人」（主にアングロフォンの西洋人を指す？）についての確立された文化的言説。（Kowner 2004）

内的

- 学習者が自分自身を表現するのに苦労する中、無能（間抜け、面倒をかけさせる、無礼）と思われたいよう、目標言語を使いたがらない（DeKeyser 1991; Pellegrino Aveni 2005）
- じれったい（自粛感）（Oxford）

本研究のリサーチ・クエスチョン

1. 学習者はどんな困難(challenge)を経験したのか？
2. 学習者はどのようにその課題を解決したのか？
3. それによって異文化能力の発達が見られるのか？

研究概要

- 個人の背景アンケート
- 言語能力試験
- 面接（日本語）
- 面接（英語）

- アンケート調査
 - 留学中のライフスタイル
 - 体験記

日本語日本文化学部課程 4年制学位

留学前 2年目		留学中 3年目		留学後 4年目	
1	2	3	4	5	6

対象の
学習者

HAZEL ヘーゼル	RORO ロロ
トルコ・イギリス	イギリス（イングランド）
小中 USA 高 UK (Sheffield)	小中高 UK
初滞在	前に三回 (総一ヶ月)
ドイツ語 フランス語 トルコ語	スペイン語 イギリス手話
日本語の会話能力 弱	日本語の会話能力 強
知的関心	ライフスタイル
「住んでいた国の文化が混ざり 合ったものです。」	「英国文化」

二人の 共有点

モビリティと多様で複雑な経験

グローバル都市ロンドンに住み、（ハイパーグローバル）ミックスクommunity SOASで学生生活を送っている。

「言語、文化、アイデンティティの一体が規範である」と仮定していない
(Clyne, 2005; Gogolin, 2002 > Scarino, Liddicoat, O'Neill 2016)

「エスノレラティブ」=文化相対的な態度 (Bennett 1993) を、留学以前からすでに持っている。

- ダイバーシティに親近感を持っている。
- 多様性への寛容/無関心である。

つながる
ことが
困難

言語能力が不足していること

ホストコミュニティは、自分たちを人間としてではなく、「珍品」や「英語の練習道具」としてしか見てくれていないことに気づく

逆説的だが、非常に多様な多文化的な環境に慣れているため、ダイバーシティにを予期しているにもかかわらず、ホスト文化に置いて多様性をめぐる社会的葛藤や、社会関係を制約する障壁を過小評価することがある。

社交的場面によっては、社会化の規範は、関与を強めるのではなく、むしろ減らすことを要求しているようである

よそ者扱いとされる

- **ヘーゼル、留学中1** 「日本では外国人が疎外感を感じることが多い。特に私はスカーフを被っているため、いつも見られているような気がしていました。」
- **ロロ、留学中2** ... 「でも、特に京都では [外国人は] 日本語を話せないという考えは、しばらくすると飽き飽きします。特に同じ大学の学生からこういう扱いをされると」つまらないです。...そして...ジロジロ見られて...私にとっては外国人としてここで暮らすことは...ダメだ。私はこんなことは全く予期しませんでした...

ホストの態度という障害

- **□□、留学後1** ...また壁が出来て.....私と友達の間では大丈夫だったけど、紹介してもらった人と私の間には...新しい人に紹介されるたびに、また壁が出来てしまって...
- **□□、留学後1** ...でも、一番の問題は、[日本人たちが]外国人とどう話せばいいのかわからないことです。私の経験では、「エイリアン、異国人」だと思われるから、外国人だからどう関わればいいのか、どう話せばいいのかわからないんです。

自分の意見を表明しない

- **ロロ、留学中1** ... 普段は恥ずかしいと思うことはないのですが、その場の雰囲気飲まれてしまったようです...つまり、今それを受け止めてしまっている [= クラスでのディスカッションで自ら意見を言わない] が、それは良いことではありません。私は外人だからいいんだ、日本人以上に常識に反することができるんだけど、それはなんか気まずくて、「大声で生意気」というステレオタイプになりたくないんです。

つながる 1 (社会的)

- **〇〇、留学後1** ... もし、私がそこに長く住んでいて、ずっとそこにいたら、障壁を取り払う覚悟ができていて、[多分] あなたがどう思っても、あなたと友達になってやる、と思うでしょう。
- **〇〇、留学後1** ...私と他の友人たちは、日本におけるLGBTの権利についてプレゼンテーションをして、トランスジェンダーの友人を含む多くの学生に意見を聞き、日本語でビデオを編集しました。私はそれを英訳して、字幕を付けました。そのビデオは多くの人にシェアされ、[...] 本当に素晴らしかったです[...] その上、学校からの反応は素晴らしかったです[...] 英語科全体にシェアされ、他の外国語科にもシェアし、学生団体にもシェアしました。だから日本の学生全員がそれをシェアして、素晴らしい感じでした。

つながる 2 (社会認知的)

来日直後

- **ヘーゼル、留学中1** ... [留学は] 絶対ダメになる、でも仕方ないから、早く終わらせようという気持ちがあったのだと思います。

留学終了前

- **ヘーゼル、留学中2** ... 最後の方ではインターネットのことで電話で話さなければならぬとき、私はまだ何もわかっていなかったのですが、心配なんかせずに、とてもリラックスしていました。それはなぜかというと、相手がひと、生身の人間であることが分かっている、「敬語を使わずに直接言ってください」と言うのと、向こうは笑って、「はい、わかりました」と言って...言うてくれました。

つながる3.1（認知的）

ジロジロみられる

- **ヘーゼル、留学中2** ... 今は大丈夫だという考えに入りました。その人が、興味があるから、「ああ、外国人です、どこから来ましたか、出身どこかな」、その人のそういうように思って、あの curious になって、その理由で、面白い人と思って、びっくりして、そのように見ることがあると思います。今は、それをわかって、あんまり気にしません。リラックスしています。

つながる3.2（認知的）

- **ヘーゼル、留学中2**私は、理想的な考え方をされていて、自分の寛容さを理想化していたと思います。他の人は適応できないかもしれないけれど、私は大丈夫。私はオープンマインドで、いろいろな場所で育った者で [...]
私は、なんとというか、かなり、ちょっと傲慢な視点を持っていたように思います。それで日本に入ってみると.....ああ、思っていたのとは全然違う...[ことに気づきました]。

この事例が示していること

1. 学生が自分の経験における不協和、困難、葛藤を、内外・外的という両方の行動によって解決する方法、すなわち、前述のように定義されたつながる方法
2. 学生が直接活動している場面・コンテキストを変えることができた方法（例：LGBTQの問題に関するビデオを日本の仲間と共有すること）
3. また、それができない場合、学生が、活動している場面、あるいは、その場面で活動している自己の表象を支えるナラティブ＝物語を変えることができる方法（例：ヘイゼルが東西に関する言説に照らして自分の前提を再解釈し、自分の偏見を認めるように）

結論

日本留学で経験した中で、学生たちが感じたいろいろな「壁」を克服することは、主なチャレンジであった。それは社会的・文化的な断絶や分離を象徴する課題であり、

- 異質なもの・よそ者とするまなざしを受ける気持ち
- 彼らの意見表明が制約される気持ち

を通して明確に表現された。

彼らが自分の体験に一貫性を取り戻し、（認知的にも社会的にも）「再び繋がった」世界観、自己像を取り戻すことは、他者とのインターアクションで構築された異文化能力を示している。

参考文献

- Block, David. 2013. The structure and agency dilemma in identity and intercultural communication research. *Language and Intercultural Communication*, 13 (2), 126-147.
- Dervin, Fred. 2010. Assessing intercultural competence in language learning and teaching: A critical review of current efforts. In Fred Dervin & E. Suamela *New approaches to assessment in higher education* 5 (pp. 155–172). Bern: Peter Lang.
- Dervin, Fred. And Heidi Layne. 2013. A guide to interculturality for international and exchange students an example of hospitality? *Journal of Multicultural Discourse*, 8 (1), 1-19.
- Lam, Carol. M-H. 2006. Reciprocal adjustment by host and sojourning groups” Mainland Chinese students in Hong Kong. In Michael Byram and Anwe Feng. (Eds.). *Living and studying abroad: Research and practice* (pp. 91-107). Clevedon/Buffalo/Toronto: Multilingual Matters.
- Liddicoat, Anthony J., and Angela Scarino. 2013 *Intercultural Language Teaching and Learning*, John Wiley & Sons
- Kowner Rotem. 2004. Japanese Miscommunication with Foreigners, *Japanstudien*, 15:1, 117-151.
- Pavlenko Aneta. 2007. Autobiographic narratives as data in applied linguistics, *Applied Linguistics* 28 (2):163
- Pavlenko, A., and J. P. Lantolf. 2000. “Second Language Learning as Participation and the (Re)Construction of Selves.” In *Sociocultural Theory and Second Language Learning*, edited by J. P. Lantolf, 155–178. Oxford: Oxford University Press.
- Pellegrino Aveni, Valerie A. 2005. *Study Abroad and Second Language Use: Constructing Self*. Cambridge, U.K.: Cambridge University Press.
- Zarate, Geneviève. 2003. Identities and plurilingualism: preconditions for the recognition of intercultural competences. In: Byram, M. (ed). *Intercultural competence*. Strasbourg: Council of Europe Publishing